

空気を読む





空気が和むと空気が凍るの"空気"は、空気を読むの"空気"と同じ意味というお話から、「空気が和む とは、緊張していた雰囲気がほぐれること。空気が凍るとは、気まずい雰囲気で、言いたいことも言えなく なること。教室の空気は、和むと凍る、どちらがいいですか。」と、10月の全校集会で、子供たちに質問し ました。ほとんどの子が、和むに挙手をしました。では、教室が和むためには・・・の質問に、「みんなが 笑う。笑顔、笑顔!」との声が聞こえてきました。「どうしたら、教室が和むかは、みんなで考えていきま しょう。」とお話ししました。その後、"友達に優しくする"や"言葉遣いに気を付ける"、"先生に注意され ない"など、自分で考えたことを教えてくれる子がいました。



「空気読んでよ」とか「空気読めないんだから」など、普段よく使われる空気 を読むは、友達や先生など、相手の気持ちやその場の雰囲気や様子を考え、そ の場や状況に合わせた行動をとることだと伝えました。空気を読むことは、と ても難しいことですが、空気が大切だということは、子供たち全員が感じてい ることだと知り、うれしく思いました。

これから、子供たち全員が、自分の考える方法で、教室を和ませてくれることを期待しています。

空気を読んで最高の修学旅行でした!

10月3・4日に、6年生が、函館・大沼へ修学旅行に行ってき ました。一泊二日でしたが、大沼公園でのカヌー体験や函館山の 夜景、自主研修など充実した時間を過ごしていました。函館山に 上るころに、雨が降ってきましたが、本降りになる前に、きれい な夜景を楽しむことができました。自主研修では、はじめ降って いた雨も次第にやみ、見学や買い物を楽しみました。また、バス





の中では、とても明るいバスガイ ドさんとたくさんお話をして、楽 しい時間を過ごしました。バスの 中の空気を読み、全力で盛り上げ





ていました。ホテルでも、一般のお客さんや他校の修学旅行生が一 緒になりましたが、食事会場やそれぞれ部屋では、ルールやマナー を守り、楽しく過ごしていました。新幹線の中や買い物のお店、見 学場所など、どこへ行ってもその場に合った行動をしようとグルー プで協力しながら活動していました。最高の修学旅行になったよう です。「空気を読む」ことを意識してくれたことも、うれしかった 修学旅行でした。